

「青谷上寺地遺跡整備活用基本計画案」に対するパブリックコメント
実施結果について

平成20年12月1日
文化財課

1 パブリックコメントの応募状況

- (1) 募集テーマ 青谷上寺地遺跡の特長を活かした活用、整備の方針、水田・湿地
景観の整備、維持管理方法など
(2) 募集期間 9月29日(月)～10月31日(金)
(3) 応募総数 合計 58人、114件

(内訳)	意見用紙提出	12人	郵送	1人
	電子メール	12人	説明会等	31人
	ファクシミリ	2人		

2 応募意見等の概要

区分	意見の概要
1. 保存管理に関する意見(1)	
出土品の重文指定	出土遺物の国重要文化財指定を目指してほしい。
2. 活用に関する意見(39)	
遺跡の活用(3)	環濠を掘り水を入れ、三区画に分けて、腰骨に銅鏃の刺さった牛の下半身部分、猪・鹿の肩甲骨、高坏、鉄器などを埋める。一区画毎に五年後・十年後・二十年後に掘り出して腐敗・減損率を測る。 自然農法や地産地消で環境にやさしいくらしの基本が学べる自然公園も考える。 多くの遺物の特徴を活かした人間教育ができる公園にすべき。
体験事業・イベント (24)	弥生時代の生活と食べ物についてもっと考える必要があると思う。 体験活動など遺跡・古代に親しめるメニューで、ぜひ遺跡を活用してほしい。
	鳥取県の財産である遺跡を活用することは、とても大切なこと。特に子どもたちが親しみやすいよう、様々なイベントを考えてほしい。
	展示館で、勾玉づくりとか他の史跡でもやっているような体験学習ではなく、もっと青谷上寺地遺跡らしい体験学習をやってほしい。
	・弥生人の骨相等から声帯の復元が可能。 ・弥生人の食生活の展示講演会は地産地消の面からも恰好な企画。地道な継続を期待。
	ガイド施設には勝部川を利用して当時の漁舟を何艘か造り、子供達を乗せる体験コースをつくってみてはどうか。
	鳥取市の遺跡公園になっている土地で今は古代米作りを行っていない。地元の小学校を対象とした水田耕作体験を復活させてほしい。
	現地の発掘体験を広く呼びかけて、発掘の楽しさと古代を認識できる方策を実現してはどうか。長野県の例を参考に。
	周りが田んぼなのでカカシを作る(古代人)。ト骨による占い。スプーン作り。田んぼの一部を花畑に。人骨、戦乱から夏の肝試しツアー。 発掘調査の体験、ミスコンテスト(弥生時代の衣装)、近隣の人たちと一緒に米作り体験、古代料理作り。占いの再現、古代米を使ったアイスクリーム作り、田んぼの一部を花畑にする。生き物観察。
	・マタタビ製のかご、道具を作る(釣針、鉄製工具、土器、木製品)。 ・当時の衣服を着てみたい。 ・当時の食事を再現したものを食べたい(食材、調理法、食器等)。 ・イベントで田げたをはいてレース、リレー大会。
	稲作の裏作にれんげを栽培し、和牛のえさにして牛ふんを土に返す。稲わらで縄やしめかざりを作る体験授業をする。

区分	意見の概要
体験事業・イベント (24)	○電気などのない生活、キャンプをする。その時代の服そうをしたり(スタッフが着てみる)、お風呂などを作ってみる。
	○古代米作り：就学者が作った方がよい。宿泊棟も自分達でつくる。
	○仮想体験：バーチャルではなく日にちをかけ体験する。
	体験学習というと子ども中心で大人が参加しにくい雰囲気がある。大人限定の体験もつくってほしい。
	展示や発掘現場などのガイド(30分～1時間くらい)がいてほしい。小学生や中学生にもガイドをさせてみては。
	妻木晩田と併せて体験学習は重複しないものを取り入れるのが良い。
	琴を復元し、現代の琴との弾き比べや演奏会をしては。木製のコンパスで花を描いてみるコーナーや板に動物を描いてみるコーナーもあったら楽しい。分銅形土製品のようにお守りをつくる体験もしたい。骨角製釣針で釣りを楽しみたい(キャッチアンドリリースで)。
	料理を再現した教室や宿泊、発掘体験限定のアイスクリーム(米アイスとか)などがあって、それが非常に美味しいと、女性や若い方も来るのでは。それを女性向けフリーマガジンなどに掲載する。
	子どもの休み(夏・春・冬休み)を利用して家族ぐるみで参加できることを考える。夏であれば簡単な料理作りをして夜も楽しむ。星空を見る、キャンプファイアー、花火大会等。高層建物の上で寝る。
	古代米等の耕作を近隣の農家を巻き込み、人の手で行う。人員を参加費を取って募集し、これらを食材として古代料理を作り提供する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・めざせ!!考古学者…発掘調査体験 ・私は弥生美人…弥生の女性たちのオシャレを体験(アクセサリ等) ・まるごと弥生人…竪穴式住居に泊まり古代食を食べるなど ・田んぼの自然…古代米作りを通じ、田んぼの生き物観察
宿泊体験学習。弥生時代の住居に泊まる(キャンプ場形式)。低学年の修学旅行(韓国からも受け入れ?)。出雲の博物館との連携。	
○大人だけ参加できない。子どもばかり、子どもが参加すると参加しにくい(子どもがいない場合)。	
○スタッフが当時の服装。近くの学生が集まれる場所に。	
情報発信(5)	全国規模の発信が重要。それには出版物発行が先ず効果的。鳥取県の古代史を書く一般読者向けの独自の出版が必要。
	小学教科書、弥生のミニ副読本を作る。
	社会科の授業の副読本を作ってはどうか。妻木晩田遺跡と青谷上寺地遺跡で弥生時代のことがよくわかる。
	早く青谷上寺地遺跡が教科書に載ってほしい。修学旅行生を青谷に呼べるように。教科書に載るように県からも働きかけてほしい。
全体的にPR不足。山陰道を走っていても、標示・看板が無い。青谷駅の案内で「青谷上寺地遺跡に行かれる方は、次の駅でお降りください。」と車内放送してはどうか。	
関連施設等とのネットワーク(3)	和紙工房等を含め、青谷が一体となった観光ルートの開発が必要。
	鳥取の観光ルートに必ず組み込み、遺跡ツーリズムのために宿泊施設の建設、観光業者との連携が必要。鳥取県内等文化施設、特に博物館と連携を図る必要がある。
	中部の長瀬高浜遺跡、西部の妻木晩田遺跡とも連携すべき。
地域との連携(2)	とにかく、地域と密着した活動が展開できるようにすること。
	活用計画「②地域と連携した活用」の中で「青谷地域全域をフィールドとして…」とあるが、気高や鹿野も取り込むべき。
名産品・グッズの開発(2)	思い出、友人などに話せるネタになるグッズの開発が必要。
	青谷の和紙を使った、遺跡のオリジナルグッズを売ってほしい。

区分	意見の概要
3. 整備に関する意見 (52)	
復元展示等整備 (11)	海水が入る汽水域を現地の整備として検討してほしい。
	川のような状態で水を流して釣堀のようなものできないか。
	復元建物は遺構、遺物に忠実なものだけではなく、消防法をクリアした宿泊用の堅穴住居とか、オートキャンプ場、アスレチック施設の併設はできないか。
	小中学校の体験学習に弥生時代の生活が体験できるよう、キャンプ宿泊用堅穴住居を設営 (50~60名対応)。
	遺跡のランドマークとして、長柱建物の復元をしてほしい。
	弥生時代を体験できるコーナーがほしい。例えば、堅穴住居で宿泊体験ができるとか。
	整備の基本方針の中で“青谷上寺地遺跡ならではの長を活かした整備”とあるが、港のことが書いてない。港、交易拠点という長を整備に活かしてほしい。
	「地下の弥生博物館」と一目でわかるような、理解できるような整備・施設が必要。木器の出土状況、人骨の出土状況がわかるように整備したり、祭礼の状況を推定復元するなど。
	発掘の結果出土状態をそのままの形で展示できることが大切。①木工品の出土状況、②人骨の出土状況、③溝と矢板の出土状況、④祭礼・占いの様子、⑤農漁業の様子、といった展示が一堂に観察できる施設の建設を要望する。
	年代によって土層も違う。発掘された遺物をその年代位置に展示するなど一案か。
発掘された出土品については、地下にあった状況が解るように元に戻して保存できればいい。	
景観整備 (10)	弥生の青谷平野の原風景を緻密に再現して残す。
	学校予定地だった水田域は花を植えてほしい。
	水田・潟域整備は長い年月が必要で、弥生時代の自然の再現はすぐにでも整備にかかってほしい。水は環境面から農薬・生活排水が混じらない自然水を利用してほしい。
	イベント広場の植栽等は弥生時代の植物園を再現してほしい。当時の小動物も放場みたいな環境を作って下さい。
	旧統合小学校予定地には現在、貴重なガマの穂が自生している。これを拡大し、全体を公園化して市民及び観光客を呼び込む。
	観光スポット、ぜひあそこに行って写真を撮りたいと思えるところを作る。水田、棚田の美しいところ。
	観光施設としての視点でも整備を検討すべき。道路が横切るなど環境が悪く、絵になるところ、写真を撮りたくなる場所がない。
	サクラや紅葉などを植えて、季節を感じる整備をほしい。
	山陰道をルート変更すること。景観上良くない。
	水田地域は現状の水田のままが良い。遺跡の中心区域についても同じ考え方でと思う。もし小学校等が近くにあれば、その子たちが日常的に遊べるような水辺もいかなと思う。
案内板・サイン (3)	各地区のゾーン主要遺構について、遺構や遺物の出土状態を現地で体感し理解できるように、その場所に案内板をお願いしたい。
	これだけの貴重な遺跡が発掘されているのに、案内看板等は貧弱。特に高速道路からも遺跡の場所がわかるようにすべき。
	山陰道からも青谷上寺地遺跡がわかるようにしてほしい。
施設整備 (22)	地域の素人の人にも一目で理解できる展示施設が欲しい (中・小学生のための冊子を編集する)。
	飲食できるスペース (弥生メニューなどが食べられる) もほしい。

区分	意見の概要	
施設整備（22）	今の展示館は狭いので総合支所の2階と一緒にして展示館のスペースを広げたほうがいい。やはり駅近くで。	
	発掘品を分散しないよう集中的に統括して展示する必要がある。	
	基本構想、活用に関する方針「拠点施設」の内容を十分考慮し、年数はかかってもすばらしい施設を一ヶ所に建築してほしい。	
	展示館、作業所、保管等をまとめる資料館を一ヶ所につくるべき。遺跡地下の状態が分かるようにし、保存作業をするところもガラス張りにして公開すべき。遺跡内が難しければ、なるべく近い所に。	
	青谷上寺地遺跡は出土品も多く、国宝に指定されてもおかしくないものがあるが、展示する場所が2ヶ所に分かれていてとても利用しにくい。計画の中には、新しく展示する場所の建設を盛り込んでほしい。	
	現在は、発掘現場、遺跡展示館、青谷支所2階の資料室と3ヶ所に分かれているが、これでは全体が見渡せない。どこか1ヶ所に展示・保管する施設を設けて広く市民・県民・国民に見てもらうことが大切。	
	展示機能、調査研究機能など、極力、施設を分散しない方向で検討すべき。駐車場等付帯施設整備・維持管理のコストがかかり、来場者の流れも分散される。	
	青谷上寺地遺跡からの貴重な出土品を多くの国民に伝えることが大事。より多くの人に公開し理解を得るため、遺跡の現地付近に展示・研究・学習ができる総合的な施設を設置して欲しい。	
	ガイダンス施設は早急に整備すべき。今のままでは、行っても何もなかった、面白くなかったというようなイメージが広がる恐れがある。	
	建物の外観を竪穴住居風にすると遠くからも見えて集客効果がある。	
	発掘の疑似体験ができる施設を取り入れてはどうか。発掘された遺構はガラス張り等で展示する。	
	青谷ようこそまつりを上寺地事業として大規模にできるか。芝の広場を作してほしい。	
	展示館・埋文センター青谷調査室等が分散状態にあるが、将来的には整理統合して重要文化財の展示・保管に耐えうる施設が必要。	
	青谷上寺地の特色は遺物。展示に力を入れてほしい。	
	整備全体（6）	出土品の重文指定を目指すなら、展示・保管のためのしっかりとした施設をつくるべき。国立博物館などに持って行かれないように。
		拠点施設は地域活性化のためにも展示施設と調査・研究・収蔵保管施設を一体化してほしい。また、景観にマッチしたものにすべき。
弥生館の建設。弥生時代の考古学の基点となる国立の施設とし、日本で一ヶ所であるをPR。全国の弥生時代の出土品を青谷に集め展示。		
研究・展示・研修を兼ねた研究棟が必要（収蔵庫を併設）。展示については発掘状況を保存し、山田寺のように一部復元模型をつくる。小・中・高校生に対する研修の場、一般に対する研修と実習を兼ねた施設にする。		
史跡の周辺で、弥生時代の食事ができるような施設が欲しい。		
鳥取市青谷町総合支所展望台から史跡を見られるようにしてほしい。		
展示館の周辺に弥生時代を復元した公園的なスペースもあれば、歴史や文化財に興味のない人も気軽に興味をもってくれる。		
誰が訪れても楽しい、気軽に訪ねることができる場所にしてほしい。		
子どもが放課後に行って遊べるような整備を工夫してほしい。		
西青谷、相屋神社の北側あたりだったら弥生の景観を復元でき、山陰道からも眺められるが。山陰道から南も上手に整備してほしい。		
港・漁労をテーマにした整備・活用ゾーンがほしい。		
鳥取を弥生時代の実証地として位置づけをする。手を加えずに現状ありのままに残し、史料に基づき復元する。		

区分	意見の概要
4. 維持管理・運営に関する意見（10）	
維持管理・運営（8）	地元に愛される遺跡にならなければならないのに、鳥取市は整備活用に取り組む気があるのか。草ぼうぼうの田を早急に整備すべし。
	水田の維持管理は困難（水も草も生きている）。
	施設を有効に活用するには、青谷地域外からの応援・協力が得られるような検討会づくりをまず検討していただきたい。
	米を作っても、魚を飼っても、それを結果（収益）に結び付けるようにしなければならない。
	休耕田の維持管理・活用策としてモロコを飼うのであれば、オーナー制度にしては。
	酒米を作って、酒造業者に酒にしてもらうことはできないか。商売と無縁で貢献しなさいと言っても無理じゃないか。
	地元とNPOで運営。
運営に係る人材育成（2）	モロコやドジョウを飼うにしても、稲の防虫や除草剤散布の行われた水田の用水ではなく、地下水の利用なども考えるべきだ。
	ボランティア団体等の中心的な人材育成に、県職員、教員、市職員を奨励すべき。 様々な活用に関わってくれるボランティアを長期的な視点で育成してほしい。ボランティア会員は高齢化している。
5. その他（12）	
発掘調査（2）	丸山崎もしくは青谷中学校の南の山の発掘調査をお願いしたい。 発掘現場を見学したくても、駐車場が近くに無いのがとても不便。
今後の取り組み（9）	全ての住民の意識改革を進め、地域ぐるみで遺跡を守るボランティアに徹する心と行動が大切。
	地球環境を考える遺跡公園として、世界一輝く重要なミニ国立博物館・国立公園として整備して発信してほしい。
	財政状況により、拠点施設の新設は困難と記載されている。あまりにも行財政の現実を見つめすぎ、理想とはほど遠い整備・活用の熱い想いを少しあきらめた消極的な基本計画である。
	青谷にしかないものがあれば関心のある人は来てもらえる。長期的な視野で最善の保存・活用ができることを望む。
	概要版に記載してあることを誠実に取り組んでほしい。
	世界的に青谷上寺地遺跡と似ている遺跡、低湿地の遺跡があるはず。整備等に係る職員は見ておくべき。地域の住民が知ることも必要だ。
	白兎海岸のように、立派な施設はできたが肝心の白兎海岸の由来等説明が目立たない、という状態にしないでほしい。
	発掘までの諸経費は知事部局において、指定後は教育委員会で負担すべきことを明確にしておくことが必要。 中国地方との関わりを説明できる範囲で実証することが必要。 インフラ整備等でもできる事は住民で（完成後も維持管理できる）。

3 今後の予定

平成20年12月 第6回基本計画検討委員会

(パブリックコメントを反映した計画案の検討)

平成21年 3月 第7回基本計画検討委員会 (基本計画最終案の検討)

基本計画策定

いただいた意見をもとに原案を再検討、修整して基本計画を策定するだけでなく、今後の事業の参考とさせていただきます。